

3兄弟で新体制主導

エクセレントG、事業多角化加速

創業21年目を迎え、全国で100拠点以上を展開するエクセレントケアシステム（徳島市）は10月、新たな経営体制へと移行した。創業者である大川一則氏が会長となり、3人の兄弟が代表取締役として舵を取る新体制が始動。長男の大川寛正CEO、次男の大川文也COO、三男の大川翔CMOが役割分担し、テクノロジーの活用や多角的な事業展開を通じて、介護業界の課題解決と未来創造に挑む。経営戦略と将来ビジョンについて語ってもらった。

新代表 トップ インタビュー



エクセレントケアシステム
大川寛正代表取締役CEO

——社長交代の経緯と、3人の役割分担について

CEO これからの時代、一人ひとりの力を

集結して大きなことを

成し遂げるチーム力が

重要という意識のもと、

父（現会長）が65歳に

なるタイミングで新体制に移行し、3代

表の形をとりました。私は

CEOとして、会社全体の成長

戦略やガバナンス、ファイナ

ンス、そして新規事業を担当

發揮できるような体制

にしています。ブラン

ディングの観点で重視

するのは、ステークホ

ルダーとの約束事を一

つひとつ守っていくこ

と。誠実な行動の積み

重ねを大切にするプロ

セスの中で、ブラン

ディングができていく

という考えです。

CEO 我々は3代

として、責任感ややり

がいを持つよう各役

職に合わせた仕組みづ

くりも進めています。

取締役会、執行役員会

議、エリアマネー

周辺産業をビジネス化していきます。例えば医療事業では、24年に訪問診療を行う「ハート徳島クリニック」を開設しました。今後は当社が施設展開するエリアを中心に、地域の医療機関や法人と連携して訪問診療クリニックと訪問看護事業所の開設を進めます。

人口規模100万人以上の都市に出店していく方針。主に特定施設とグループホームを展開し、今後5年間で50億円の売上増を見込んでいます。

——ICT活用やDXによる効率化はどのようになっていますか

COO 以前は役員の

経営判断で進めていま

したが、3年ほど前に

DX推進プロジェクト

チームを立ち上げ、現

効率は、見守りセ

ンサーの活用により夜

間の定期巡回が不要と

なり、転倒・骨折件数

の減少という効果も表

れています。空いた時

間を活用し、オプショ

ンの自費サービスとし

て個別ケア提供を行

い、生産性向上を図

っています。

COO バックオフィ

より、兵庫エリアで複数の特定施設の見守り業務を1ヵ所に集約するオペレーター制の試験導入を開始。どこの地域でも管理センターとなる1ヵ所の拠点を

置けば、そこですべての施設の見守り業務を管理できるようになるでしょう。将来的には施設だけでなく、在宅でも安全安心に暮らせるような社会づくりを

目指して、集中管理センターのような役割を担っていききたいです。

——人材採用・育成・定着の取り組みや方針を教えてください

COO バックオフィ

ス側でもデータベース

を作り、管理ソフトな

どに集約させていま

す。例えば、職員が打

刻した勤怠情報を本社

のデータベースに飛ば

すことで、常勤換算の

計算を自動化。管理者

の負担と間違えるリス

クを取り除き、データ

を見ながら経営指標を

コントロールできるよ

うになりました。

CEO さらに半年前

は年度内に評価制度と

合致させる予定です。

——多様な人材の確保について

CMO 外国人材に

ついては、在留資格の

ある人を対象にSNS

で専用ページをつく

っており、そこからの問

い合わせで採用につな

がるケースが多くあり

ます。昨年は30名ほど

採用でき、全体では現

在100名を超える外

国人が働いています。

COO また、徳島県

と連携して「マッチ

ボックス」というプ

ラットフォーム運営に

参画しています。これ

は時間単位の仕事マッ

——最後に、新体制で目指す未来像について聞かせてください

CMO 地域の方々に

安心と笑顔を届ける存

在でありたい。そのた

めにはブランディング

も信頼も必要で、約束

を守っていくことが重

要です。「この会社に入

ってよかった」「ここ

に任せてよかった」と

社員や利用者・家族、

地域の人々に感じても

らえる企業にしてい

たいです。

COO 企業ビジョン

の「オンラインワン、オ

ンリーヌ」を実現する

仕組みをつくってい

きたい。利益を創出する事業がビジョンを実現するとは限らないので、多角的に同時進行

しています。

CEO 福祉の楽し

さ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、

足を踏み入れる人を

を増やしたい。自社

だけが勝ち抜くような

界観ではなく、地域や

行政と連携して町や社

会をつくっていく役割

を目指します。

CEO 福祉の楽し

さ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、

足を踏み入れる人を

を増やしたい。自社

だけが勝ち抜くような

入居率99%の安定経営

新設とMAで拠点拡大

連携しています。介護現場を持つ立場として、販売事業者に対するコンサルティングも視野に入れています。

——運営施設の現在の入居率と、今後の展開における重点エリアは

CEO 入居率は全施設平均で98%。新規施設を除くと99%を維持

しています。エリアは、当社拠点のある東京、

神奈川、愛知、京都、

大阪、兵庫、岡山、広

島など東海道線沿い、

場を知るエリアマネージャーらと常設メンバーとで取り組んでいます。機器活用で効率化された時間を測るなどしてモデル施設を作り、全社的に波及させているところです。

CEO 私がエクセレントグループに加わった5年前は、ほとんどの施設が紙で書類管理をしていた状況でした。介護記録ソフトの導入により、今では紙の利用率を80%以上削減できています。介護記録ソフトと本社の管理ソフトを連携させる仕組み構築も進めています。施設単位の業務効率化では、見守りセ

ンサーの活用により夜の定期巡回が不要となり、転倒・骨折件数の減少という効果も表れています。空いた時間を活用し、オプションの自費サービスとして個別ケア提供を行い、生産性向上を図っています。

COO バックオフィスを側でもデータベースを作り、管理ソフトなど集約させています。例えば、職員が打刻した勤怠情報を本社

のデータベースに飛ばすことで、常勤換算の計算を自動化。管理者の負担と間違えるリスクを取り除き、データを見ながら経営指標をコントロールできるようになりました。

CEO さらに半年前は年度内に評価制度と合致させる予定です。

——最後に、新体制で目指す未来像について聞かせてください

CMO 地域の方々に

安心と笑顔を届ける存

在でありたい。そのた

めにはブランディング

も信頼も必要で、約束

を守っていくことが重

要です。「この会社に入ってよかった」「ここに任せてよかった」と社員や利用者・家族、地域の人々に感じてもらえる企業にしていきたいです。

COO 企業ビジョンの「オンラインワン、オンリーヌ」を実現する仕組みをつくって

いきたい。利益を創出する事業がビジョンを実現するとは限らない

ので、多角的に同時進行

しています。

CEO 福祉の楽しさ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、足を踏み入れる人を

を増やしたい。自社だけが勝ち抜くような

界観ではなく、地域や行政と連携して町や社

会をつくっていく役割を目指します。

CEO 福祉の楽しさ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、足を踏み入れる人を

を増やしたい。自社だけが勝ち抜くような

界観ではなく、地域や行政と連携して町や社

会をつくっていく役割を目指します。

CEO 福祉の楽しさ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、足を踏み入れる人を

を増やしたい。自社だけが勝ち抜くような

界観ではなく、地域や行政と連携して町や社

会をつくっていく役割を目指します。

CEO 福祉の楽しさ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、足を踏み入れる人を

を増やしたい。自社だけが勝ち抜くような

界観ではなく、地域や行政と連携して町や社

会をつくっていく役割を目指します。

CEO 福祉の楽しさ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、足を踏み入れる人を

を増やしたい。自社だけが勝ち抜くような

界観ではなく、地域や行政と連携して町や社

会をつくっていく役割を目指します。

CEO 福祉の楽しさ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、足を踏み入れる人を

を増やしたい。自社だけが勝ち抜くような

界観ではなく、地域や行政と連携して町や社

会をつくっていく役割を目指します。

CEO 福祉の楽しさ・やりがいの発信と

最先端のDXを通して、足を踏み入れる人を